

動労「本部」のブルトレ旅費返上を弾劾する

動労「本部」は七月五日の全国戦術委員長会議において、ブルトレインの検査係添乗旅費「返済」を決定した。

三月動労「本部」定期中央委員会での「働こう運動」方針につづく今回の裏切り行為は、国鉄労働運動解体を狙う政府・自民党・国鉄当局に完全屈服した革マル反動分子が、自分たちだけは生き残してもらおうかわりに、当局の先兵となって労働者の利益を売り渡そうとするものであり、革マルを弾劾し、動労からの一掃をかちとらねばならない。

ブルトレ旅費は正当な生活給だ

そもそも運転検査係旅費は、労使間で確認し、管理者の指示と承認を得て請求し支給されているもので、乗務員から検査係への転職ともなう生活給として、数十年にわたる長い歴史をもって支払われてきたものである。

にもかかわらず、当局はブルトレ旅費を「ヤミ手当」であるとして一方的に廃止し、あまつさえ組合員個人を相手に六月三十日までの返済をせまり、ついに七月十五日、国労・全動労組合員に対し、「不当支出金返済」なる支払い命令を、各簡易裁判所に申し立てるといふ暴挙を行ったことは、断じて許すわけにはいかない。

「ブルトレ」は国鉄労働運動の

未来がかかっている

国鉄当局が、ブルトレ旅費を訴訟してまで返済をせまる狙いはどこにあるのか。体制危機を突破し、戦争にむけ国家体制を総動員する突破口として、国鉄労働運動解体を不可欠とする支配階級は、第二臨調第四部会を発足させ、昨年末よりマスコミの「ヤミ・カラ」キャンペーンと一体となった「悪慣行」是正を口実とした既得権剥奪の攻撃を開始してきた。

そして六月二五日に発足した自民党交通部会の「国鉄再建のための方策案」を基本方針とすることを決定した国鉄当局は、鉄労を先兵に動労「本部」を抱きこみ、これまでの労使関係を一変する攻撃にうって出ようとしている。

今回のブルトレ旅費返済要求は、当局の決意をしめす第一弾として重大な意味をもつ攻撃なのである。

従って、動労「本部」のように「守るべきもの

は守る」とか革マル分子長谷川の「ブルトレは千葉にないから関係ない」などというレベルのとなえ方は論外であり、この攻撃とどう闘うかは国鉄労働運動の未来がかかっている問題として問われているのだ。

臨調の先兵Ⅱ革マル松崎の裏切りを許すな

動労「本部」は四組合共闘のなかで、ブルトレ旅費返済要求については裁判闘争で闘うと意志統一していながら、「国労が最終的に裁判闘争で闘う方針を動労に話すことなく決めたから」と、国労に責任転嫁し、七月五日の全国戦術長会議において、ブルトレ旅費を「ヤミ手当」と認め、返済を組合員に強制したのである。

動労「本部」革マルは、またしても革マル路線をもちこみ、革マル・松崎のセクト的利害・取引によって自らの組合員すら裏切ったのである。これこそ「働こう運動」路線の行きつく先きであり、動労「本部」革マルを当局の先兵、臨調の先兵といわずして何んであろうか。

労働者を権力・当局に売り渡して恥じない動労「本部」革マルを一刻もはやく国鉄から一掃しよるではないか。

反撃の闘いに決起しよう

国鉄当局による既得権剥奪の強行、緊急十一項目先取り実施の攻撃に対し、反合・三里塚を軸に、階級的力関係を逆転していく方向で国鉄決戦に勝利しなければならぬ。

そのために、具体的方策をたて、九月定期大会にむけた職場討議をまきおこし、反撃に起とうではないか。

ブルトレ旅費問題は 既得権・慣行剥奪攻撃の核心だ

三里塚、ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ